

未来へ一票を投じる

五ヶ瀬町 甲斐 悠飛

突然ですが皆さんは選挙に毎回行っていますか？私は今年の 1 月に選挙権を得たことから、人生初の国政選挙で期日前投票をしてきました。初めての投票ということもあり、緊張のあまり期日前投票所の入口で固まってしまったのを覚えています。

候補者の政策や党名など「自分の考えに近い人は誰なのか」、「自分が応援したいと思える人は誰なのか」や「投票所には何か持って行った方が良いのか」など沢山の不安や疑問がありましたが、入場券を一枚持って行くと、渡された投票用紙に掲示された候補者名、政党名等を記入するだけで、自分が思っているより意外と簡単に投票できることを学びました。今年から町職員として採用された私は、10月に執行された衆議院議員総選挙の選挙事務にも携わることができました。事前の投票所設営では、投票箱を設置したり土足で入ってもいいようにシートを引いたり机を出したりと、事前に準備することが多々あることを知り運営する側の大変さや、責任の重さを感じました。投票日の私の役割は投票者と選挙人名簿との照合という受付事務でしたが、先輩から「当日投票できない人を誤って受け付けてしまうとニュースになるよ」と言われ、とても緊張しましたが無事投票事務を終わることができました。

投票事務に携わる中で私は思いのほか投票率が低いと感じました。投票所に向かえば数分で終わる簡単な投票になぜ行かない人が多いのか疑問に思いました。せっかく社会に対する自分の意見を投票という形で意思表示できる機会があるのにもったいないと感じます。今回、五ヶ瀬町の衆議院議員総選挙の投票率は 76.22%でした。県内では高い方ではありますが有権者数 2,750 人に対して投票者数 2,096 人という数字を見ると約 650 人が投票をしていないことになります。もちろん様々な事情があり期日前や、当日に投票ができない方もいると思います。中には、関心の薄れから選挙を辞退された方もいるかもしれません。また、私みたいに初めての選挙でどうしたら良いのか分からなかった若い世代もいるかもしれません。代理投票

や不在者投票ができること、投票所に行くことに不安がある場合は友人と一緒に往ったり、聞いたり、誰かと一緒に投票所に向かうなど方法はいくらかでもあります。私たち一人ひとりが選挙というものに関心を持ち投票するという行動に移すことで、より良い社会をつくる一歩となり、また次世代を担う子どもたちに明るい未来を渡していけるのではないかと考えます。

さて、私は今年から町役場の町民課に配属になり税の業務に従事しています。軽自動車税の賦課や徴収など色々な仕事をさせていただいています。私は入庁当初、町民課の町民税係に配属になったとき、自分自身が「税」のことを良く理解していないのにやっていけるのかと不安な気持ちになりました。しかし、仕事を遂行していく中で今となっては生活を支える税に携われて良かったと感じています。なぜなら窓口等で証明書の発行や徴収、相談などの業務を通し、様々な方たちと関わりを持つことで、町のために、町民のために私ができることを学びながら考えていこうと強く思うようになったからです。

私は今まで仕事をすることも投票をすることもほとんど身近に考えたことがなく過ごしてきましたが、社会人となった1年目に選挙に携わったことで仕事も選挙もどちらも似ているところがあることに気づきました。それは、成人し社会人としての自覚と責任を持った行動をとりながら、社会変動に対して敏感に意識を持ち、考え、行動に移していく、その繰り返しは町の未来につながっていくという行政の姿と、一人ひとりの意思で未来を思い投票するという行動の繰り返しは地域や国を変えていくという議会制民主主義の理想の姿が重なって見えたからです。一つの選挙にできるのはわずか一票、されど一票です。私は、有権者として明るい未来をつくる義務があるということをお忘れずこれから必ず投票します。

あなたはどんな未来を願い、どんな人に清き一票を投じますか？

ご清聴ありがとうございました。